





審査結果報告書

平成29年9月 / 日

主査	氏名	石井正浩	
副査	氏名	阪口 孝行	
副査	氏名	井上 俊行	
副査	氏名	三枝 信	

1. 申請者氏名 : 武田 憲子

2. 論文テーマ : RAMP1 suppresses mucosal injury from dextran sodium sulfate-induced colitis in mice.
(RAMP1 はマウスにおけるデキストラン硫酸ナトリウム誘発腸炎の粘膜損傷を抑制する)

3. 論文審査結果 :

カルシトニン遺伝子関連ペプチド (以下 CGRP) は中枢・末梢に広く分布する神経伝達ペプチドであり、そのひとつとして腸管運動の調節に関与している。マウスの大腸炎はデキストラン硫酸ナトリウム (以下 DSS) で誘発した。DSS を投与されたマウスは腸炎となり、その炎症の重症度はコントロール (以下 WT) よりも CGRP⁸⁻³⁷ 群、さらに RAMP1^{-/-} 群で著明に高度であった。体重減少率、血便による貧血の進行度、炎症による腸管短縮率、病理学的炎症グレードともに同じ結果であった。マクロファージ、肥満細胞から産生される局所組織内の炎症性サイトカイン濃度の上昇も認められた。本研究により、CGRP/RAMP1 が腸炎に関与したその炎症所見の程度の差から、CGRP は DSS 誘発腸炎に対して炎症抑制効果をもつことを示した。腸炎に対して CGRP を介してこの腸管神経を調整し効果が得られることが、臨床の場合において可能である。本研究は将来の臨床にも極めて有用な情報であり学位論文としてふさわしい。また、発表も適切で質疑応答も適切であった。